

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「様々な発達の子どもの性
～産婦人科医師からお伝えしたいこと～」
- 2 対 象 保護者、教職員
- 3 専門医 井上 聡子 医師
(さとこ女性クリニック)
- 4 実施月 7月
- 5 内 容(キーワード)
心と体の成長と思春期
自立とは依存先を増やすこと、依存先を増やすのは社会の役割
相談よりも雑談



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*保護者と教職員が合同で講演を拝聴し、それぞれが抱える性に関する指導や関わりについての悩みを解決するための基本となる部分について学ぶことができた。保護者と教職員がより密に連携し、課題解決に向かっていけると考える。

②校内の組織づくりについて

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*児童に必要な教育内容について、学校全体で考えていくきっかけとなった。今後分掌部等での話し合いを通して、組織的に性に関する指導に取り組んでいく。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*産婦人科医師の講演を通して、依存先として産婦人科をより身近に、心強く感じた。事前にメールで打ち合わせを行い、児童の様子や保護者、教職員の悩みに沿った講演をしていただくことができた。

〔受講者の感想など〕

○障がいがあるないにしろ身体が大人に成長するのはほぼみんな同じである事なので、女の子は母が、男の子は父がとあまり分担せず、みんなで大人になる身体の事を学べたらなと思った。そして「相談より雑談」を大事に子供の体だけでなく心の成長も大切にしたいと思う。大人になって性に関する事を学ぶ機会は中々ないのでとても貴重だった。(保護者)

○性に関する事を考える良い機会になったのではないかなと思う。教員同士でも「雑談」という感覚を大事にし、児童についてぎくばらんに話していく中で、解決のヒントとなるアイデアが出てくるのではないかな。成功ありきではなく、いろいろと試してみることが大事だと思った。(教職員)

○「今」の時代に求められる性教育を知ることができた。どのような言葉掛けや指導(関わり)をすると良いのかを保護者と教師が同じ場で一緒に知ることができて良かった。(教職員)



〔教科やその他の指導との関連性〕

○生活単元学習

○日頃の児童との関わり